

1/5(土) まいど! 倫理号です。... 天気が続き気持が良し「正しい姿勢」にも
なれど、仕事してても気持もハズミ域。

草せ寧ぶアホ一鳥

今週の

倫理

10月のテーマ | 身体の姿勢と心の姿勢

2022.10.15~10.21

1303号

事業の成長発展につなげる実践の一つとして、身体の姿勢を正すことが挙げられます。なぜなら、身体の姿勢を正すことは、経営者の心の姿勢に影響を及ぼすからです。Mさんは大手企業の下請け会社の経営者で、主に電気設備のメンテナンスに携わっています。創業した当初は、朝から晩まで埃と汗にまみれ、がむしゃらに仕事に取り組み、働くことに無上の喜びを感じていました。次第に売り上げも伸びていったのですが、忙しさが増し、現場に出ることが困難になっていきました。そこで、社員を募集したところ、優秀な人材が集まり、自ら現場に出なくても仕事ができるようになりました。次第にMさんは気が緩み、一人でゴルフや温泉地に出かけるようになったのです。現場に出たときは、朝早く起きて規則正しい生活を送っていたMさんですが、社員に仕事を任せ、車の中で昼寝をする毎日になりました。働いていたときは、スツと背筋が伸び、頑健だった身体も、車の中の姿勢が良くなかったのか、肩や腰の痛みに悩まされるようになりました。体調が優れないせいか、Mさんの不満の心は社員に向けられました。汗水たらして社員が一所懸命に仕事をしてくれるからこそ収入を得られているのですが、努力している割には利益が少ないと不平を漏らすようになったのです。Mさんの心持ちに呼応するかのよう、工具の紛失や社員の火の不始末による変電



「正しい姿勢」が 企業繁栄のカギ

設備の火災事故、身体の不調を訴えて休む人が出るなど、思いもよらぬアクシデントが頻発しました。

〈何も悪いことはしていないのに、なぜこのようなことが続くのか〉と周囲に対して不信感を募らせていたMさん。あるとき、次のような言葉に出会いました。

「こんな仕事なんか、やらなくてもいいのだ、どうだっていい...:と行ったような心でいると、姿勢にもしまりがなく、ゆがみがちになる。これはしっかりやるべき仕事だと張り切ってやっていると、背筋もおのずから伸び、胸を張るようになっこうになる。そして仕事もそのようになり、きりきりなるようになってくるのである」

〔つねに活路あり〕丸山竹秋著

Mさんは創業当初の意気込みが薄れ、脱力感を覚えていたことを猛省しました。

その後、作業服を丁寧にアイロンがけして、現場ではヘルメットのひもを顎にきちっとかけ、仕事が終わった時は道具の汚れをきれいにふき取り、必ず所定の位置に戻すことにしたのです。

家庭ではソファに寝そべってテレビを見ていましたが、背筋を伸ばして座るようにしました。これらの実践を続けていると、仕事にも効果が表われ始めました。社員が笑顔で働くようになったのです。自ずと利益も上がり、臨時ボーナスを出すまでに至りました。Mさんは身の回りに起こったことは、すべて自身の姿勢の表われだったと知り、今日も朗らかな心で働いています。